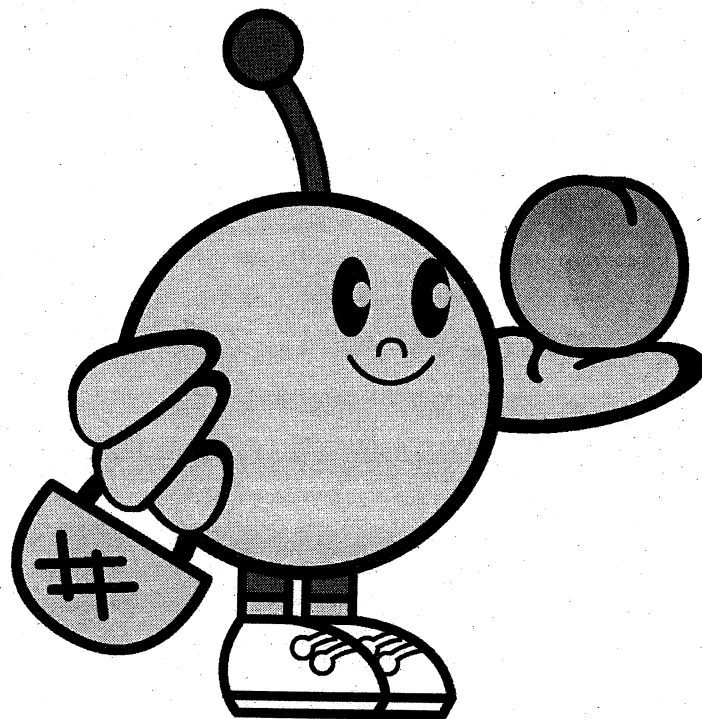




ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

**高齢者社会参加活動支援事業
平成29年度福島県高齢者支え合い
コミュニティ支援事業
活動報告書**



福島県

目次

◆高齢者支え合いコミュニティ支援事業活動報告書について	P 1
◆取組実績	
○安心・安全ネットワーク平野	P 3
○大久保赤岩町内会	P 6
○五月町親和会	P 9
○昭和村小野川区会	P 11
○中央台鹿島のぞみの会	P 14
○中央町会	P 16
○二枚橋・須萱行政区	P 18
○東山元気高齢者を作る会	P 20
○宝沢町内会	P 22
○松川地域安心・安全ネットワーク委員会	P 25
○毛戸元気高齢者を作る会	P 28
○守山区町会	P 30
◆福島県高齢者支え合いコミュニティ支援事業実施要領	P 33

高齢者支え合いコミュニティ支援事業活動報告書について

高齢化社会を迎えて、元気な高齢者が、これまで培った知識や経験を活かし、地域社会を支える担い手となって活躍することが期待されております。

元気な高齢者が身近な地域で社会活動に参加するきっかけをつくり、健康でいきいきと生活していただくため、県では平成28年度から「高齢者支え合いコミュニティ支援事業」として、高齢者が主体となって健康づくりや住民間の交流、高齢者の生活支援、見守り活動などのコミュニティづくりを展開する町内会の取組を支援しております。

この報告書は、今年度、事業に取り組み、高齢者が主役のコミュニティづくりを始めた12か所の町内会等の活動内容についてまとめたものです。

これらの活動を参考に、高齢者が支え合う地域コミュニティづくりに、県内各地の町内会で取り組んでいただければ幸いです。

平成29年度取組実績

- 安心・安全ネットワーク平野（福島市）
 - ・認知症サポーター養成講座実施、健康体操教室開催、高齢者徘徊模擬訓練実施等
- 大久保赤岩町内会（福島市）
 - ・健康増進運動の実施、住民間交流・高齢者向け消火器使用訓練の実施等
- 五月町親和会（福島市）
 - ・健康体操の実施等
- 昭和村小野川区会（昭和村）
 - ・地域づくり勉強会の開催、地域の情報発信への取り組み
- 中央台鹿島のぞみの会（いわき市）
 - ・のぞみサロンの開催、環境美化活動等

- 中央町会（福島市）
 - ・ 広報紙発行、防犯パトロールの実施
- 二枚橋・須萱行政区（飯舘村）
 - ・ 帰村住民の見守り、地域づくり活動の実施
- 東山元気高齢者を作る会（川内村）
 - ・ 住民間交流・地域づくり活動の実施
- 宝沢町内会（郡山市）
 - ・ 生活支援活動の実施、健康づくり活動等
- 松川地域安心・安全ネットワーク委員会（福島市）
 - ・ 健康づくり・介護予防に関する勉強会等の開催、住民間交流のためのイベントの開催、被災者との交流等
- 毛戸元気高齢者を作る会（川内村）
 - ・ 住民間交流・健康づくり活動、地域づくり活動の実施
- 守山区町会（郡山市）
 - ・ 住民・世代間交流イベントの開催、健康づくり事業の実施、環境美化活動の実施等

安心・安全ネットワーク平野

代表者 : 会長 大平 敏
活動地域 : 福島市飯坂町平野地区
会員数 : 8,949人

【会の特徴】

○安心・安全ネットワーク平野は、平野地区町内会連合会、自治振興協議会、社会福祉協議会平野地区会、民生児童委員会協議会等が互いに連携し、支援が必要な高齢者や障がい者、子ども等の早期発見及び早期対応を行うために組織された団体である。

地域の生活課題の多様化・複雑化に対応できるよう、防犯、交通安全、防災、環境美化、地域福祉、健康づくり等の様々な課題に対し、ネットワークを機能されることにより、官民の連携と協働を築いていくことを目的としている。

ネットワーク事業の実施主体が地域住民であることが、大きな特徴である。

事業名：ひらの あい♥あい 事業

◇事業化の背景と動機

東日本大震災を機に、地域の力を十分に活かすためには、各種団体や住民、関係機関の相互理解と繋がり強化が必要であると実感した。

また、ゲリラ豪雨による水害、孤独死、認知症高齢者の徘徊等の多様な地域課題がある。

地域ケア会議を通じて、今後の社会情勢と身近な課題を共有した上で、今回の事業開始が必要であると結論付けた。

◇地域への効果

○平野地区住民の“向こう三軒両隣の地域コミュニティ”及び“地域愛”の強化ができる。

○健康寿命を延ばす取り組みとして、体操を手段とした“通いの場づくり”ができる。

○認知症への理解と普及啓発が前進し、認知症に対するサポーターと家族の応援者が増える。

活動内容

【見守り活動】

- ◆認知症サポーター養成講座の実施

【健康づくり】

- ◆健康体操教室（いきいきももりん体操）の実施

【地域コミュニティづくり】

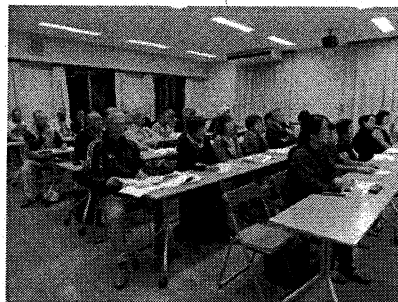
- ◆認知症等高齢者徘徊模擬訓練の実施
- ◆広報誌「安心・安全ネットワークだより」の発行

事業の実績

認知症サポーター養成講座

地域での見守り活動のため、地区内で5回実施した。

延べ196名の方に参加いただき、「正しい知識の大切さを感じた」、「認知症への対応の仕方がわかった」等の感想が寄せられ、地域住民の認知症への理解が深まった。



いきいきももりん体操体験講座

高齢者の介護予防や健康づくりのために、“いきいきももりん体操（福島市版介護予防体操）”を実施。

この活動は、健康づくりのみならず、高齢者が気軽に参加でき、交流できる“集いの場”づくりも目的としている。



認知症等高齢者徘徊模擬訓練

平成29年11月12日、平野地区の住民と介護事業所など計139名が参加して、徘徊者への声かけ訓練を実施した。

訓練では、グループに分かれて決められたルートをすれ違う方々と挨拶を交わしながら歩いた。

徘徊者に積極的に声を掛けている姿、声かけの方法についてアドバイスを受けている場面等も見られ、実りと笑顔あふれる一日となった。



事業に取り組んでみての感想

○認知症サポーター養成講座の実施により、認知症の知識や正しい理解を広めることができた。次年度以降は、小中学校向けのサポーター養成講座や今年度の受講者を対象としたステップアップ講座の実施を検討している。

○認知症等高齢者徘徊模擬訓練を初めて実施したが、多くの住民が参加し、活気にあふれ楽しく参加している様子が印象的であった。次年度以降も継続していく予定だが、活動資金の確保が課題となっている。

○高齢者の介護予防や健康づくりのための活動として、いきいきももりん体操に取り組んだ。参加者にも好評であり、定期的に活動するための話し合いが継続されることとなっている。

また、活動拠点を増やすことも視野に入れ、各町内会やサロンに働きかけを行うことを検討している。

○広報誌を定期的に発行するようにしたところ、「広報誌を通じて活動に参加できなかった住民も活動内容を知ることができるようになり、よかった。」という意見をいただいた。今後も活動を続けていくことと並行して、広報誌の発行も継続していくことで、広く住民に活動が浸透していくことを目指していく。

なお、発行にあたり事務費を要するため、経費の確保も併せて行っていく必要がある。

大久保赤岩町内会

代 表 者 : 会長 須田 正一
活 動 地 域 : 福島市飯野町大久保 (川俣町側一部地域)
加入世帯数 : 81世帯

【会の特徴】

- 平成20年飯野町が福島市に合併したことを機に、町内会組織として発足。その際、自立した組織「同志会」を組み入れ祭事も含めた運営方式とした。
- 町内会名は、赤岩稻荷神社・赤岩観音、地域のシンボルである、奇岩・奇石の赤岩山の名称をとって命名した。
- 中山間の農村地帯であるが、10年ほど前に30区画程の宅地分譲が行われた。震災後は、飯舘・山木屋の方々が移り住むようになり、毎年2～3軒の増加が見込まれる。

事業名：大久保赤岩町内会
高齢者支え合いコミュニティ支援事業

◇事業化の背景と動機

福島市より「いきいきももりん体操」の提案を受け、高齢者の健康づくりのために町内会にて実施することにした。

◇地域への効果

今まで、各団体（長寿会、グラウンド・ゴルフ等）が単独で活動していたが、今回の事業実施にて、町内会として地域一体として活動するようになった。

また、被災者との交流の機会となった。

活動内容

【健康づくり】

- ◆いきいきももりん体操の実施
- ◆グラウンド・ゴルフの実施

【住民間交流】

- ◆季節の行事、祭礼等の実施

【地域コミュニティづくり】

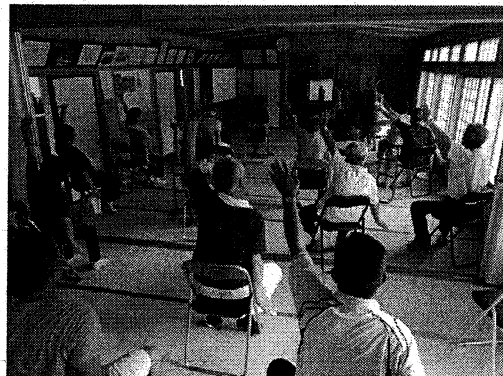
- ◆高齢者向けの消火器使用訓練の実施

事業の実績

いきいきももりん体操

7月より、毎週1回「いきいきももりん体操」を赤岩集会所で実施した。

地区の高齢者（会員及び被災者）が毎回20数名参加し、高齢者の健康づくり、住民間交流に大いに役立った。



芋煮会

平成29年11月19日、赤岩集会所にて芋煮会を開催した。

地区の住民が子どもから高齢者まで多数参加し、住民間交流が図られた。



高齢者向け消火器訓練

平成29年11月19日、在宅の比率が高い高齢者を対象とした初期消火訓練を実施した。

参加者からは、実際に体験することの重要性を認識したとの感想が寄せられた。



事業に取り組んでみての感想

町内会で「いきいきももりん体操」を実施することにより、住民が多く参加し、地区の高齢者の健康づくりと体力づくり、住民間交流に大いに役立った。

また、飯舘村や川俣町から避難している方も参加し、更なる交流が図られた。

「いきいきももりん体操」を実施するにあたって、機材の購入は活動の大きなプラス要因になった。今回購入した機材は、今後も様々な事業に活用していきたい。

五月町親和会

代表者 : 会長 齋藤 高紀
活動地域 : 福島市五月町内
加入世帯数 : 約200世帯

【会の特徴】

- 五月町を統括している親和会（町会）があり、ほがらか会（老人会）、いきいきサロン、青年部、子供会からなる。
- 各会とも行事活動を持っており、活発に活動している。

事業名：健康体操さつきプロジェクト

◇事業化の背景と動機

町内の高齢者率が上がることは、五月町も例外ではない。
引きこもりがちな高齢者を、週1回の「いきいきもりん体操」をとおし“元気にしたい”“健康にしたい”という思いから、五月町健康プロジェクトとして発足した。

◇地域への効果

このプロジェクトに参加することにより、みんなで集まる機会が増えた。
会員の健康に対する意識も高まり、町内会行事への参加も活発になった。

活動内容

【健康づくり】

- ◆いきいきもりん体操の実施

【地域コミュニティづくり】

- ◆交流会（お茶会）の開催

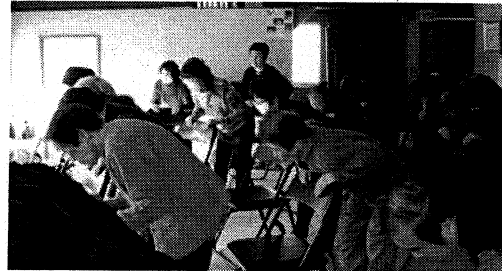
事業の実績

いきいきももりん体操

毎週水曜日、福島市推薦の健康体操である「いきいきももりん体操」を実施している。

年間休み無く行っており、毎回20名程が参加して、いすを使って運動をしている。

また、終了後はお茶会を開催し、住民間交流の場としている。



事業に取り組んでみての感想

事業開始前は、毎週1回、年間を通して開催することに不安があったが、参加者の受け止め方は概ね良好。今では継続することに不安はない。

昭和村小野川区会

代 表 者 : 区長 渡部 忠雄
活 動 地 域 : 大沼郡昭和村大字小野川地内
会 員 数 : 43世帯、104人

【会の特徴】

- 夏秋期の生産量日本一を誇る“昭和村宿根カスミソウ”栽培農家が多い地区。
- 特別豪雪地帯である昭和村の中でも標高が最も高い位置にある地区であり、雪が上(空)よりも横殴りあるいは下(地面)から吹き上げるような地域。
- 地元農家の女性たちが、平成18年に小野川食品加工グループを結成し、冬場の農閑期に伝統食の凍み餅を作り、揚げ菓子に加工し、販売を行っている。

事業名：小野川区会高齢者支え合いコミュニティ支援事業

◇事業化の背景と動機

会津若松市と昭和村を結ぶ国道401号トンネルの開通が平成35年に予定され、トンネルの出入り口にあたる小野川地区は、開通による利便性向上の一方、人口流出や深刻化する高齢化による地域維持力の低下、独居老人の急増などが想定され、「高齢化しても安心して暮らせる地域づくり」を目指した住民参加が必要となっている。

また、トンネル開通後は、観光産業などへの開拓可能性も広がることから、住民の話し合いの場、活動の場を確保し、次世代に繋ぐ「希望のある地域づくり」の基盤整備を図りたいと考えた。

◇地域への効果

○震災からの復興、地域の再生を目指して活動している被災地に、千年続いてきた昭和村のコミュニティが持つ“集落の暮らし方”的な工夫や知恵を伝えることができる。

○自分たちの地域の将来像を、時間をかけて自分たちで決めていくので、地域づくりに意欲と希望が生まれる。

○浜通りにある地域と交流することで、災害発生時等の非常時に、互いの地域が助け合う協力関係が結べる。

活動内容

【地域コミュニティづくり】

- ◆農業を活かした被災地との交流
- ◆勉強会の開催
- ◆地域の情報発信

事業の実績

浪江町視察

震災に負けず、花卉と野菜・果物の栽培等に果敢に取り組んでいる浪江町のNPO法人JINの活動を見学した。

自分たちの地域を守るべき主体は自分たちだという意識を明確に持つためのよい体験となった。



学習会

浪江町のNPO法人JINの川村博代表や下郷町“大内宿”の吉村徳男氏等を招いた講習会や、他地域の団体との意見交換会などを実施した。

計5回開催したが、“住民の支え合い精神”や“住民参加の地域づくり”を学ぶよいきっかけとなった。



支え合い活動の記録

地域の情報発信のために、地区住民の支え合い活動や伝統行事の様子を記録した。

今後は、これらのデータを使用して地区ホームページや集落パンフレットを作成し、「地域との絆のある暮らし」への理解と共感を、都市部に住む次世代（息子家族等）に向け訴求する情報発信を行っていく予定である。



事業に取り組んでみての感想

今回の取り組みを通して、住民の地域を愛する心に基づいた息の長い活動がより優先されるべきであるという感慨を持った方が多くなった。

また、事業の中で、「浪江町」と「大内宿」という2つの地域再生への取り組みについて学ぶ機会があり、地域の主役は住民、住民主体で行われている地域づくりは結実するということを改めて感じた。

活動していく中で、課題も見えてきたが、これからも将来を見据えた取り組みを続けていく。

中央台鹿島のぞみの会

代表者 : 会長 馬上 勲
活動地域 : いわき市中央台鹿島地区内
会員数 : 46人

【会の特徴】

○いわき市中央台鹿島地区に居住する50歳以上の会員をもって組織する会であり、震災により避難してきた方も所属している。

平成4年に地域の老人クラブとして発足。当初は会員が140名程度であったが、近年50～60歳の入会者が少なく、現在では当初の約3割の会員数である。

○町内の一人暮らしの高齢者や双葉郡からの転入者、退職後家に閉じこもりがちになってしまった方などの友達づくり、生きがいと健康づくり、社会との絆づくりのために活動している。

事業名 : 中央台鹿島のぞみの会
高齢者支え合いコミュニティ支援事業

◇事業化の背景と動機

高齢者の増加により地域の元気がなくなってきているので、交流の場を設けて住民のふれあいの機会をつくることにより地区を活性化させようと考えた。

◇地域への効果

○「のぞみサロン」の開設により気軽に立ち寄れる場ができ、一人暮らしの高齢者の参加が増えるなど、サロンの拡がりが見えてきた。

○地区内の小学校児童及びその父兄と知り合いになり、気軽に町内の状況等について話し合いができるようになった。

活動内容

【生きがいづくり】

◆のぞみサロンの開設

【地域づくり・絆づくり】

◆公園の除草、植木の剪定、道路のゴミ拾い、防犯活動等の実施

◆被災地との交流

事業の実績

のぞみサロン

町内の中央台鹿島パークセンターにおいて月1～2回「のぞみサロン」を開設。

会員以外にも中央台鹿島地区及び他地区の者も対象としており、アートフラワーづくりやおしゃべりによる交流を楽しんだ。



地域間交流

平成30年1月14日、楢葉町の「楢葉まなび館」で行われたイベントに参加。

原発事故で避難区域に指定された12市町村の小中学生に、お手玉、竹とんぼ、こま回しなどの昔の遊びを教えた。



環境美化活動

定期的に、地区内4ヶ所の公園の除草やごみ拾いを実施した。



事業に取り組んでみての感想

- のぞみサロンの開設が会員の増加に繋がった。
- 公園整備に使用する機材を購入できたことにより、迅速な対応ができるようになった。
- AV機器等の購入により、活動の記録、行事の運営が容易になり、従来よりも充実した活動ができるようになった。

中央町会

代表者：会長 安達 正紀

活動地域：福島市東中央、西中央、南中央、北中央、下野寺、笹木野（一部）地区

加入世帯数：1,660世帯

【会の特徴】

○福島市の西部地区に位置し、以前は肥沃な水田地帯であった。

昭和51年からの土地区画整理事業により、平成元年591世帯が会員の町会としてスタートした。

○野田地区17町内会5,109世帯の33%を超える世帯数であり、吾妻地区一番の町内会として活動している。

事業名：中央町会高齢者支え合いコミュニティ支援事業

◇事業化の背景と動機

平成30年度は町会創立30周年の節目の年。記念事業等を遂行するにあたり、より多くの会員に活動内容の周知徹底を図りたく、広報活動に重点を置くこととした。

また、町内の安全・安心は町民で守ることを意識付けし、皆でまちづくりを進めるよい契機となると考えた。

◇地域への効果

○広報紙の発行により、会員間の情報共有が図れるようになった。

○町内パトロールの維持により、防犯意識等が高まった。

活動内容

【地域コミュニティづくり】

◆広報紙の「ふれあい」の発行

◆「班長だより」の発行

◆町内パトロールの実施

事業の実績

広報紙“ふれあい”の発行

広報紙“ふれあい”を発行し、町会全戸に配布した。

【発行月】 7月、9月、12月、2月

【発行部数】 2,000部



“班長だより”の発行

班長だよりを発行し、町内会の班長に配布した。

【発行月】 9月、2月

【発行部数】 300部



町内パトロールの実施

平成29年6月より町会役員と班長により、町内パトロールを実施した。

事業に取り組んでみての感想

広報紙発刊にあたっては、役員個々の助言をいただき、また、印刷会社とも連携を深め、きめ細やかに対応できた。

町内パトロールに関しては、ごみ集積に係る意見が多く、市役所とも連携し、独自看板を作成するなどして改善策を展開。班長方の意識向上にも役立った。

二枚橋・須萱行政区

代表者 : 区長 川井 吉夫
活動地域 : 相馬郡飯館村二枚橋、須萱行政区内
会員数 : 275人

【会の特徴】

- 飯館村内にある20行政区の1つであり、村の最西端に位置し、川俣町に隣接している。
- 震災以前は、子供会育成会、老人会、各組織が機能し、行政区全体でのイベントや取り組みを行っていた。
- 現在、地区の帰村者は41人(内65歳以上 22人)であり、現状では各組織も成り立たないことから、組織の再構築の時期と捉えている。
- 帰村の有無にかかわらず、会員と行政区とのつながりを持ち続けていきたいと考え、各種事業を実施している。

事業名：二枚橋・須萱高齢者支え合いコミュニティ支援事業

◇事業化の背景と動機

平成29年3月31日の避難指示解除を受け、今後の行政区としての活動について思案していたところ、助成事業があることを知った。

行政区の活動再開にあたり、全員で同じスタッフジャンパーを着用して一体感を持って活動できればという願いもあり、今回の事業に取り組むこととした。

◇地域への効果

帰村している方が少ないことは理解しており、当初、戻った人だけで行政区を運営していくことに不安があった。

しかし、実際に活動してみると一時帰村の方々の協力も得られ、つながりがあることが分かり、今後の事業展開に希望が見いだせた。

活動内容

【生活支援】

◆帰村高齢者宅訪問事業の実施

【地域コミュニティづくり】

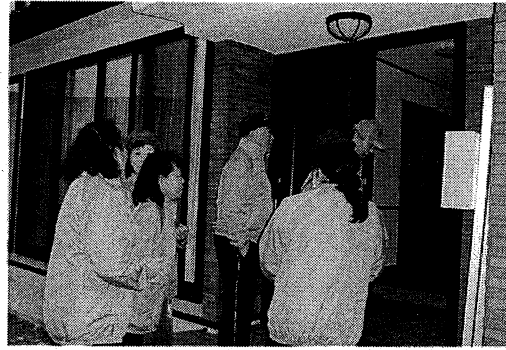
◆伝統行事の継承

事業の実績

帰村高齢者宅訪問

平成29年11月27日、帰村した高齢者宅を訪問し、地区全体で見守り活動を行う旨等の説明を行って歩いた。

その後も、随時、各自都合の良い時間帯などに訪問活動を行っている。



縄もじり・しめ縄づくり

平成29年12月2日、例年実施していた、行政区による縄もじりを震災以降実施できていなかったことから、再開に向けた取り組みを実施した。

また、全世帯分のしめ縄を作成し、全戸に配付した。



事業に取り組んでみての感想

避難後初めての企画であったため、多くの行政区民が集い、笑顔がたくさん見られたことが良かった。

次年度は、夏の盆踊りの復活などを検討していきたい。

まだまだ、帰村する方も少なく、若者が戻ってくるかはわからないが、行政区のつながりをいつまでも保っていきたいと思っている。

東山元気高齢者を作る会

代表者 : 会長 三瓶 乾太
活動地域 : 双葉郡川内村第7行政区内
会員数 : 39人

【会の特徴】

○避難指示解除後、川内村第7行政区に帰還した60歳以上の者で結成された会。
○高齢者のみに戻り、また、日中独居の方も多いため、自分たちの地域が楽しい場所となるよう、会員同士が互いに支え合いたいとの思いが強い地域である。

事業名：東山高齢者支え合いコミュニティ支援事業

◇事業化の背景と動機

震災後、高齢者世帯・独居（日中独居を含む）が増加し、それにより閉じこもりやうつ傾向の方が増えている。

閉じこもりの方を減らし、心身ともに健康に過ごしていけるよう、交流や活動の場を設けたいと思い、本事業を希望した。

◇地域への効果

交流する機会が増え、住民間のネットワークが深まり、健康・介護予防への意識も高まり、交流の場に誘い合うことで、閉じこもりやうつ傾向の方の社会参加が期待される。

また、美化活動への参加により、役割・生きがいができ、いきいきした生活が送れる。

活動内容

【住民間交流】

◆運動、レクリエーション、茶話会等の実施

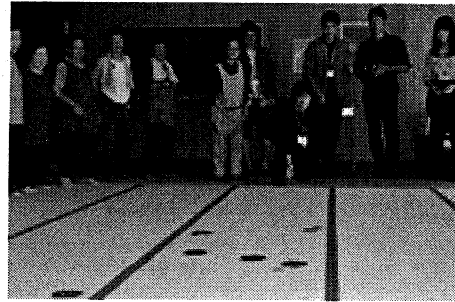
【地域づくり活動】

◆美化活動の実施

事業の実績

会員の交流

週1回、集会所で交流会を開催。
会員に限らず、婦人会や学生等とも交流した。



美化活動

集会所内や集会所周辺の美化活動を4回実施。
会員同士おしゃべり等をしながら楽しく活動した。



事業に取り組んでみての感想

定期的な交流の場を持つことにより、会員同士はもちろん、様々な団体との交流の機会が増え、人との交流の楽しさや自分達の役割を体感できた。

また、得意料理等を持ち寄ったり、近所の閉じこもりがちな高齢者に声かけなど自分達のできることを実施することにより、居場所作りや友人同士の支え合いや見守りに繋がり、生きがいや役割を見出せる場となった。

さらに、集会所周辺の美化活動を通して、会員自身も地域に貢献の意識が芽生え、地域からも高齢者の活動を評価してもらえることができた。

宝沢町内会

代 表 者 : 会長 堀 光俊
活 動 地 域 : 郡山市富久山町八山田地内 (通称 “宝沢レイクタウン”)
会 員 世 帯 数 : 398 世帯

【会の特徴】

○平成2～3年に開発された分譲宅地で結成された町内会組織で、多くは他地域から転入してきた住民である。

しかし、昨今、高齢により土地・家屋を手放す方、その不動産を取得して他地域から転入される方がおり、町内会活動の変化を求められている。

事業名：宝沢町内会高齢者交流活動事業

◇事業化の背景と動機

高齢化の進展、他地域からの新入会員の増加等により、住民交流について早急な対応、具体的活動を求められていたところ、当該事業の存在を知り、計画を推進することとした。

◇地域への効果

「黄色い旗」を利用する運動は、資源回収など目的の初期段階ではあるが、回を重ねるごとに浸透している。

今後も継続し、最終的には住民相互の安否を確認できるようなものとしていきたい。

活動内容

【生活支援】

- ◆高齢者、独居者を対象とした資源物回収やゴミ出し活動等の実施
- ◆高齢者、独居者、共働き世帯を対象とした除草の実施

【健康づくり】

- ◆健康づくり講習会の開催

【地域コミュニティづくり】

- ◆地域内の公園を利用した運動の場の提供等

事業の実績

「黄色い旗」運動

資源物回収支援、生活ごみの配送支援、健康安否の確認を目的として「黄色い旗」を作成し、町内会380世帯に配布した。

必要時に庭先に出していただき、役員、近所の方が支援する活動が、回を重ねるごとに徐々に浸透してきている。



除草支援

平成29年7月から9月、外部団体にも協力いただき、地区内8軒のお宅の除草支援を実施した。



健康づくり教室

平成29年11月9日、湯座聖美氏を講師とした健康づくり教室を開催した。

当日は、町内会員15名の方が参加し、講演の後、自宅でもできる健康づくりの方法や脳トレを含む体操などを実践。参加者から、再度実施してほしいとの要望もなされた。



事業に取り組んでみての感想

「黄色い旗」運動は、活動が地区の住民に浸透し、最終目的に達するまでには、まだまだ紆余曲折があると思っている。

当町内会も“高齢化”は避けられず、いずれ今までの活動からの転換を余儀なくされると考えている。

今からできることを着実に実施するなど、隣近所との生活が円滑にできる町内会を実現するために、これからも将来を見据えた活動していきたい。

松川地域安心・安全ネットワーク委員会

代 表 者 : 会長 森 重勝
活 動 地 域 : 福島市松川町石合地内
事業対象世帯数 : 375世帯

【会の特徴】

○松川地域の高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、見守り・支援体制を構築する活動の一環として始まった、松川地域住民・公的機関や事業者・各種団体などからの有志で構成された団体である。

○松川地域での徘徊模擬訓練の実施、小・中学校での認知症サポーター養成講座の開催などに取り組んでいる。

事業名：石合高齢者支え合いコミュニティ支援事業

◇事業化の背景と動機

松川町石合町内会は、「少子・高齢化社会」が急速に進展する中で、従来型の活動に限界を感じ、数年前から高齢化社会への対策に取り組んでいた。

このような中、福島県の実施する補助事業を知り、当該町内会の活動を支援するために事業に取り組むこととした。

◇地域への効果

「認知症SOSネットワーク模擬訓練」は、町内会の枠を超え活動できた。

また、地域内の学童クラブや飯舘村からの避難者などと、地区・世代を超えた交流もできた。

活動内容

【世代間交流】

- ◆高齢者と児童との世代間交流の機会づくり

【健康づくり】

- ◆福祉・健康等に関する学習会、健康教室等の開催

【地域コミュニティづくり】

- ◆高齢者を対象とした食事会の開催
- ◆被災者との交流

事業の実績

認知症SOSネットワーク模擬訓練

昨年度まで実施していた「徘徊模擬訓練」をさらに発展させ、「認知症SOSネットワーク模擬訓練」として実施した。

松川地域の町内会、地域の団体等が参加した。

この取り組みは、福島市内の外、他市・町からも関心が寄せられている。



いきいきももりん体操

毎週火曜日、福島市版介護予防「いきいきももりん体操」を実施した。

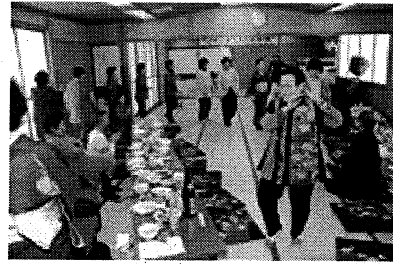
なお、体操後、毎月2回「茶話会・サロン」も開催した。



新春激励交流会「餅つき昼食会」

「餅つき昼食会」を開催し、飯舘村から避難されている方と交流した。

当日は、余興として七福神の舞や手品が披露され、最後は飯舘村「盆踊り」をみんなで踊った。



異世代交流会活動

松川地内の認定児童クラブとクリスマス会、新年書初め添削指導で交流した。

子どもたちはもちろん、施設職員の方々にも大歓迎された。



事業に取り組んでみての感想

十分な事前準備があった訳ではなかったが、これまでの高齢化社会への対応として行ってきた行政や地域包括支援センター及び近隣の介護施設との連携した諸活動の実績があったため、「案ずるより産むが易し」でスムーズに事業を実施することができた。

特に、従来の町内会固有の「地域限定型の活動」から、「広域連携活動エリア」で今求められている課題や要望にチャレンジできたことは、新たなモデル事業としての可能性とこれからの地域のあるべき姿に希望を持つことができたと感じている。

毛戸元気高齢者を作る会

代表者 : 会長 小林 幹夫
活動地域 : 双葉郡川内村第8行政区内
会員数 : 25

【会の特徴】

○避難指示解除後、川内村第8行政区に帰還した60歳以上の者で結成された会。
○川内村第8行政区は、原発事故により警戒区域となり、平成26年10月1日及び平成28年6月14日に避難解除となった区域であるが、若い世代は、子ども達への健康被害の心配や就学などの理由により、帰還していない状況となっている。
若い人が帰還しないからこそ、健康で楽しみながら、地域で支え合いながら生活していきたいとの思いが強い地域である。

事業名：毛戸高齢者支え合いコミュニティ支援事業

◇事業化の背景と動機

若い世代の帰還が進まないため、地域の高齢者が主体となって、「いきいき高齢者」を目指しながら、健康増進活動、自主的な防火・防犯活動で安心な地域コミュニティを構築したいと思い、本事業を希望した。

◇地域への効果

住民主体の活動が増え、健康増進への関心が高まる。
また、交流の機会が増え、住民同士の見守り意識も高まることで、引きこもり防止、防災・防火に繋がる。

活動内容

【住民間交流】

◆調理実習、餅つき大会等の開催

【健康づくり活動】

◆スポーツによる交流、健康相談の開催

【地域づくり活動】

◆防火・防犯活動の実施

事業の実績

餅つき大会

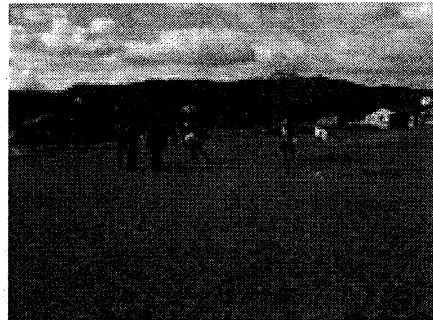
会員同士の交流はもちろん、関係者も交えて交流した。



健康づくり活動

健康づくりと住民間交流を目的としたグラウンド・ゴルフを週1回実施した。

また、医師による高血圧の勉強会も開催した。



事業に取り組んでみての感想

本事業の実施により、医師や保健師と警察・消防署員による講話を通して、健康づくり活動や自分達の地域は自分達で守らなければならないという意識が強くなった。

また、グラウンド・ゴルフ大会やクロリティー大会の優勝トロフィーを目指して意欲的になり、運動することで自分自身の生きがいや健康づくりが図られた。

さらに、事業を通して住民が集まる機会が多くなったため、住民間の交流が図られ、仲間意識が高まり、地域の団結が強まった。

守山区町会

代 表 者 : 区長 猪俣 昭彦
活 動 地 域 : 郡山市田村町守山地内
会 員 数 : 500世帯、1,470人

【会の特徴】

- 郡山市で唯一石垣(守山城)を持つ地域であり、三春町や須賀川市と歴史的背景を共有する。
- 少子高齢化が進む中、区町会・婦人会・こども会・青年会・消防団等が連携して行事を開催し、世代間交流を図っている。
- ゴミのないきれいな町内を目指し、不法投棄監視の強化を図っている。
- 町内に県営復興住宅「守山駅西団地」が整備されたことを契機に、住民と被災者との交流を行い、町内融和を図っている。

事業名：守山区町会高齢者支え合いコミュニティ支援事業

◇事業化の背景と動機

高齢化が進む中、高齢者の健康増進・住民間交流を推進し、町内活性化を図ろうと考えた。

◇地域への効果

- 高齢者の活躍の場を確保し、元気な高齢者を増やしていく。
- 孤立化を防止する。
- イベントを実施する中で、各団体がその特性を生かして中心的役割が果たせるようになる。

活動内容

【三世代交流活動】

- ◆ 「小正月の集い」、「盆踊り大会」等の開催

【見守り活動】

- ◆ 児童・生徒の登下校時の見守り活動の実施

【健康づくり活動】

- ◆ 「いきいき100歳体操」、「健康教室」、「お茶会」の実施

【環境美化活動】

- ◆ 「花壇の整備」、「不法投棄防止活動」の実施

事業の実績

小正月の集い

新年1月の最終日曜日、児童生徒から高齢者まで260人が参加し、だんご刺しや餅つきを楽しんだ。

その後、きな粉もち・あんもち、豚汁等を食し満足。午後からは歌や踊り自慢の人々による芸能大会。拍手喝采の一日であった。

なお、当日は、市長をはじめ地元市議会議員の参加もあり、大いに盛り上がった。



いきいき百歳体操

「いつまでも元気にいたい!!」という思いから、健康づくり推進員が中心となり、毎週月曜日に実施している。

また、この場が住民交流に繋がり、時折町内のウォーキングやお茶会などが計画され、皆ワイワイと楽しい時間を過ごしてる。

なお、当会の活動は、平成30年2月、郡山市主催の「介護予防推進大会」において、市長感謝状をいただいた。



環境美化活動

平成29年6月28日、町内会有志20名の協力の下、地区内の花壇の整備と不法投棄防止活動を実施した。

なお、この活動は、花いっぱいコンクール運動で『優良賞』を受賞した。



事業に取り組んでみての感想

○毎週1回「いきいき100歳体操」を続けることで、足腰に力が付いて転びにくくなったとの感想が聞かれた。

回を重ねることで新たな参加者も増え、高齢者の交流促進に繋がったと思われるので、今後も週1回の体操を続けて元気な高齢者を増やしていきたい。

なお、次年度からは、「いきいき100歳体操」を継続していくための集会所利用料の負担について、参加者より会費を徴収し経費に当てていくこととする。

○「盆踊り」は雨降りだったことから例年より参加者が少なく、また「小正月のつどい」はインフルエンザ大流行により子どもたちの参加が少なかった。

世代間交流を図るためには効果的なイベントでもあることから、今後も継続して実施していきたい。

○復興住宅の方々の参加も得られ、今後も交流を図っていきたい。

○町内会活動の主たる担い手がほとんど高齢者になっており、担い手の育成が今後の課題であると感じた。

福島県高齢者支え合いコミュニティ支援事業実施要領

1 目的

福島県内の町又は字の区域その他市町村内の一定の区域に住所を有する者の地縁に基づいて形成された団体（町内会、自治会など）及び市町村の区域を範囲とするその連合組織（以下「町内会等」という。）において、高齢者が主体となって住民間の交流、高齢者の生活支援、見守り活動などのコミュニティづくりを展開する取組を支援し、高齢者が支え合う地域コミュニティの構築を図り、その取組を町内会等の活動モデルとして県内に拡げていくことを目的とする。

2 事業の内容

(1) 対象事業

ア 募集事業

町内会等において高齢者自身が主体的に参画する活動を通して、健康づくり、見守り、住民間の交流、住民の助け合いなどの地域コミュニティづくりにつなげる事業。

例) 住民間の交流（世代間交流会開催、交流カフェ運営、町内会情報誌の作成等）
見守り活動（訪問活動、児童登下校時の見守り等）
健康づくり活動（健康増進運動、介護予防等）
生活支援（買物支援、配食、送迎等）
地域づくり活動（防火、防犯活動等） などに自主的に取り組む事業

イ 要件

募集事業は、次の要件をすべて満たすものとする。

- (ア) 町内会等活動のモデルとして、県内に拡げられる取組であること。
- (イ) 県からの支援が終了後も継続して実施する見込みがあること。
- (ウ) 他の補助金等の交付を受けていない、又は受ける予定のないこと。
- (エ) 県の要請に応じ会議等に出席し、活動内容を発表又は報告すること。

(2) 対象団体

対象事業に取り組む町内会等とする。法人格の有無は問わない。

(3) 対象経費

対象事業の立ち上げ、取組等に要する報償費、旅費、需用費、役務費、使用料及び賃借料等で1町内会等当たり1事業に限りとする。

例) 先進的な取り組みの視察に係る経費
町内会情報誌の作成費
サロン運営・意見交換会にかかる経費 など

(4) 対象期間

事業決定の日から当該日の属する年度の3月31日までとし、この期間内に事業を実施し、完了しなければならない。

(5) 県の支援

県は対象団体に対し、次の支援を行う。
アドバイザー派遣、先進事例の紹介、事業報告会の開催等

3 募集と選定

募集については、別途定める。

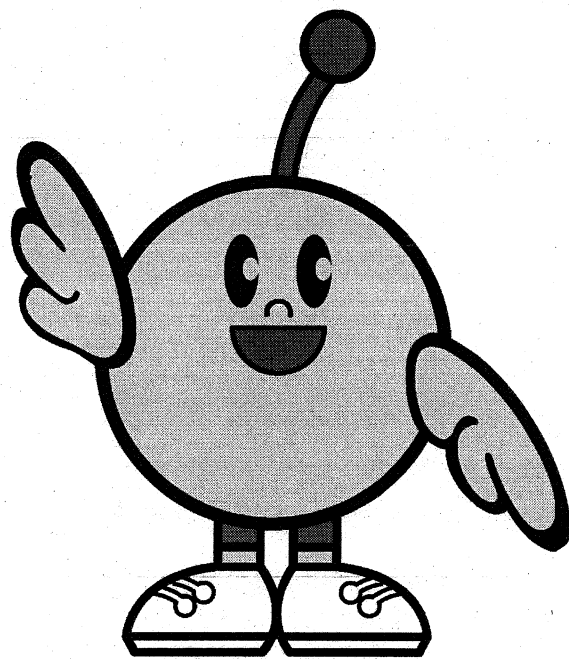
県は、提案された事業計画書等に基づき、本事業の目的に沿った、モデル事業としてふさわしいかについて審査し、12件の事業を選定する。

附 則

この要領は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成29年4月1日から施行する。



🌀 福島県

保健福祉部高齢福祉課長寿社会担当

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号（西庁舎7階）

電話：024-521-7163 FAX：024-521-7985

発行：平成30年3月